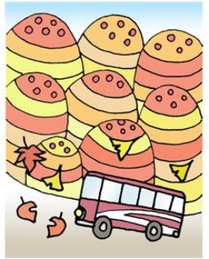
２　０　２　４

館長だより11月号

よらいや やらいや 公民館



災害への備え

９月28日（土）、前町区の防災訓練がありました。本当に津波が来たらどうするのか、私自身も興味があったので、避難場所の青谷小学校を取材しました。

９時には役員が続々と集まり、準備と綿密な打ち合わせをして10時に地震が起き、津波が来るという想定で訓練が行われました。

やはり１月１日の能登半島地震の印象が強いようで、皆さん真剣に取り組んでおられました。区長の国森洋さんは、「救援物資はすぐには届かないので、３日分くらいの食料や非常持出の用具は揃えることと、家族のことは家族で把握することが大切」と語っておられました。

張り詰めた空気の中、防災訓練が行われた。

非常持出袋。準備ができていると、
いざというとき安心ですね。

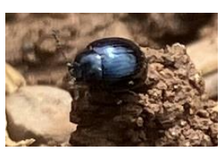
とくさんの畑日記

大根　その後３回目の種まき・・・

先月号で、暑さのために大根の芽が出ず、２度目を蒔いたと書きましたが、その後は芽が出てやれやれと思っていました。しかし、今度は下のように虫に食われて散々でした。写真のような黒い虫が数匹いたので「犯人はお前か!!」という感じでした。調べてみると、「ダイコンハムシ」という、読んで字のごとく大根の葉を好んで全部食べてしまう虫でした。悔しいけれど、３回目の種蒔きをしました。この日は20匹くらい潰しました。薬は使いたくないので、見付けて潰すしかない・・・。

痛々しい大根の葉。ダイコンハムシは、見つかるとすぐに手足を葉から放して、土に紛れて逃げるらしい。

３枚の名札が並ぶ
最後のは遅れて採れる種類



【ダイコンハムシ】
こいつが大根の葉を食べるらしい！

シリーズ　知っていましたか、青谷のこと？

青谷木綿つくりがいっとき盛んだった

「青谷木綿」というものがあったらしいということは、新聞やニュース、青谷高校関係でご存知の方が多いと思いますが、それぞれが繋がっていないので簡単にまとめてみまどの程度正確かというと疑問ですが、以下は、青谷木綿に関わる多くの人から聞いたことを元に、「青谷木綿を青谷の人が知らない理由」を推測したものです。

江戸時代末期から、青谷では海岸線一帯の丘陵地（ジオパークに入る）で綿をたくさん栽培していました。今の青谷小学校の辺りにあった段々畑で栽培されていたという話もあります。綿は、鳥取藩の主要作物〔米、綿、鉄〕であり、勝部川下流の芦崎（現在の浜町）から北前船で大阪へ出荷したので、青谷木綿と言っていました。全国的には木綿問屋も数多くあり、幕末に綿花産業は発展しました。しかし、明治時代に入ると養蚕業が盛んになってきました。絹と木綿とでは用途が違うから、どちらも作ればいいようなものですが、当時の経済事情を考えると、お金になる絹を選び、蚕を飼うようになったから綿を栽培する人は少なくなったのかも知れません。また、外国から安い綿が入ってきたのも影響して、青谷木綿は廃れていったようです。蚕を飼っていたという家はたくさんありますが、綿を栽培していたという家はあまり聞きません。そのような理由で、今では青谷の人に青谷木綿のことを聞いても、知らない人が多いのでしょう。

しかし、青谷高校が青谷学として青谷木綿を全国に知ってもらうために「青谷木綿の復活」をテーマに研究しました。そして、令和元年度の「山陰海岸ジオパーク中高生政策提案・実践コンテスト」に参加し、見事最優秀賞に輝きました。この受賞をきっかけに、青谷高校では５年経った今でも、綿花を栽培しています。

おわりに

石破茂さんが総理大臣になり、地方創生を目標に掲げられました。東京にいると、経済が第一だと考えられがちですが、流石は中学卒業まで鳥取に住んだ経験が生かされるのではないかと期待しています。